

やりがいを感じる 生まれ故郷の仕事



グラフィックデザイナー／WEBデザイナー

こばやし れな
小林 礼奈さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.206

スケッチブックを常に持ち歩くほど絵が好きで、将来の夢は漫画家だった幼少期。高校時代に志したグラフィックデザイナーとなった、小美玉市納場出身でつくば市にお住まいの小林礼奈さんにインタビューします。

デザインで繋ぐ地域の輪

小林さんが運営しているインスタグラム「見るだけデザイン」の教科書は約17万人の

フォロワーを持ち、デザイナーではない人がデザインの楽しさを学べる投稿を不定期で更新しています。「美しい写真から広がる！配色＆デザインアイデア辞典」をKADOKAWAから出版。「持ち歩きたいアイデアの宝庫」として高く評価されています。

そんな小林さんが「嫌なことがあった時いつも気晴らしに行っていた場所なんです」と見せてくれた、実家の近所の田園風景の写真。「生まれ育ったこのまちが大好きです。できることなら離れたくない」と小林さん。東京のデザイン専門学校に入学し、羽鳥駅から水道橋まで1年

間は通学するも、2年目は新型コロナウイルスの影響でオンライン授業に。「東京は刺激的で楽しかったけれど、住むところではないなと思っていました」。

就職活動でデザイン会社を探しても、コロナ禍で「今年は求人を出さない」というところばかりで難航。「とにかくデザインになりたい」という強い気持ちで、求人を出していないデザイン会社にも履歴書を送り続けた結果、運良くつくば市のデザイン会社に就職が決定。

夫の仕事の都合で兵庫県西宮市に引っ越した小林さんは、航空機を利用し月1〜2回のペースで帰省。「常に帰ることばかり考えていました」と笑います。今年8月に夫の仕事が東京になり、TXで通えるつくば市に引っ越しました。小美玉市にも頻繁に帰ってきて、「みのれにもちよこちよこ来られ

るようになって嬉しいですよ」と笑顔。

物心ついたときには既にみのれがあつて、発表会や絵画の展示など、人生のそばにみのれがあることが当たり前だったという小林さん。そのみのれで事業チラシのデザインや、母校の美野里中で美術の指導のアシスタントを行うことになり「とてもやりがいを感じています」。

「絵を描いているうちに挫折しちゃう子って結構いるんじゃないかと思えます。この夏、小美玉市のサマースクールで、子どもたちが純粋に絵を楽しんでいる様子を見て、これが本質だなと深く感じ入りました。私にできることで貢献していきたいです」と小林さん。子どもたちにとって小林さんとの交流が大きな希望と刺激になることでしょう。これからも応援しています。

(藤田佐知子)